

令和3年度
埋蔵文化財調査士補
資格試験

【I】択一式問題・答案用紙

受験番号	氏名

試験日：令和3年10月16日（土）
会場：「連合会館」東京・御茶ノ水

公益社団法人 日本文化財保護協会

問1 埋蔵文化財調査士・調査士補は5年ごとに資格更新することとなっておりますが、間違っているものはどれか。

- A. CPD継続教育制度に沿ってCPDポイントの申請を行い、埋蔵文化財調査士は100ポイント、埋蔵文化財調査士補は50ポイントを取得していることが条件となる。
- B. CPDポイント不足による未更新者は、定められたCPDポイント取得後の更新手続きを終えるまで資格停止となり、埋蔵文化財調査士・調査士補の資格名で業務をすることはできない。
- C. 埋蔵文化財調査士補は、CPDポイント不足による未更新者であっても実務経歴と必要条件を満たせば特例として埋蔵文化財調査士の受験資格を与えられる。
- D. 資格を取得した後に自主的に新しい調査技術、調査成果の習得と考古学研究への参加に努めることが継続教育（CPD）制度の目的である。

問1	C
----	---

問2 埋蔵文化財調査士補の資格に関する説明で、正しいものはどれか。

- A. 埋蔵文化財調査士補は、安全かつ適切に発掘作業ができ、経験の少ない作業員の指導のみできる者をいう。
- B. 埋蔵文化財調査士補は、発掘現場を統括し、発掘調査を適切に実施できる者をいう。
- C. 埋蔵文化財調査士補は、2年実務経験を積みれば埋蔵文化財調査士になれる。
- D. 埋蔵文化財調査士補は、発掘調査から報告書作成まで一貫して実施できる者をいう。

問2	B
----	---

問3 熱中症に関する説明で、間違っているものはどれか。

- A. 過去10年間における熱中症死傷者数では、1,000人を超えている年もある。
- B. 症状は、Ⅰ度・Ⅱ度・Ⅲ度に分類されており、重症度はⅢ度が最も大きい。
- C. 労働安全衛生法（以下「安衛法」という。）では、多量の発汗を伴う作業においては、事業者が飲料水を備えることを義務付けている。
- D. JIS規格に適合したWBGT指数計でWBGT値を測り、測定値に応じた対策を取ることが重要である。

問3	C
----	---

問4 危険性又は有害性の調査等(リスクアセスメント)で、間違っているものはどれか。

- A. 安衛法では、28条の2で一般的な作業・設備のリスクアセスメント等の実施に努力義務が課せられ、57条の3で化学物質のリスクアセスメント等の実施に義務が課されている。
- B. 作業前の段階でリスクを抽出し、重大性や発生可能性の評価結果から重大なリスクに対して適切な対策を実施していく手法である。
- C. リスク低減措置の優先順位は4段階あり、計画段階において措置することが最も効果的である。
- D. リスクアセスメントを適切に実施することにより、低減対策後は残留リスクがなくなる。

問4	D
----	---

問5 墜落災害防止に関する説明で、間違っているものはどれか。

- A. 単管足場等における手すりの高さは、現在80cm以上とされている。
- B. 高さ2m以上の箇所で行う場合は、原則として作業床を設置する。
- C. 令和3（2021）年9月時点で墜落制止用器具（安全帯）を使用する場合は、ハーネス型が原則である。
- D. 平成21（2009）年の法改正で、交さ筋かいの隙間からの墜落防止措置が対策され、平成27（2015）年の法改正で、注文者が行う安全点検が充実された。

問5	A
----	---

問6 ある発掘現場の車両系建設機械を伴う作業に関する説明で、間違っているものはどれか。

- A. 車両系建設機械の転落、地山の崩壊を防止するため、地形、地質等の状態の調査を行った。
- B. 車両系建設機械の運行経路等を定めた作業計画を作成し、労働者の代表として運転手に周知した。
- C. 車両系建設機械の転倒、転落を防止するため運行経路の路肩の崩壊防止措置を行った。
- D. 車両系建設機械の作業中は労働者が危険を生じる箇所への立入禁止措置を行った。

問6	B
----	---

問7 ある発掘現場の状況に関する説明で、間違っているものはどれか。

- A. 地山の掘削作業において、作業主任者が元方事業者との打合せで不在となったので、作業主任者が戻るまで掘削作業を中止した。
- B. 高さが1.6mとなる箇所には、昇降はしごが設けられていた。
- C. 勾配が20度の架設通路に「踏み栈」が設けられていた。
- D. 掘削面の高さが2m以上となる地山の掘削の作業において、作業指揮者を任命した。

問7	D
----	---

問8 新型コロナウイルスの感染防止に関して、間違っているものはどれか。

- A. 変異ウイルスは非常に感染力が強いことに加え、若い人でも重症化しやすい特徴がある。
- B. ワクチンを接種済みの人は感染を広げる可能性が低くなるので、未接種者と同じ感染防止対策は求められない。
- C. 感染防止対策としてゼロ密（密閉・密集・密接）を徹底し、人との距離は2m以上あけることが求められる。
- D. マスクをしていても会話の声は小さく、時間は短くすることが求められる。

問8	B
----	---

問9 周知の埋蔵文化財包蔵地において開発事業者が工事を行う場合、教育委員会へ60日前に事前の届出をしなければならないがそれはどの条項か。

- A. 文化財保護法第92条
- B. 文化財保護法第93条
- C. 文化財保護法第96条
- D. 文化財保護法第101条

問9	B
----	---

- 問10 現在、民間調査組織が文化財保護法第92条で一括調査を行う場合、どのように行われるか。
- A. 常駐する行政の調査担当者の指導のもと、調査の全体を行う方式
 - B. 常駐しないが行政の調査担当者の指導のもと、調査の全体を行う方式
 - C. 発掘調査の全体計画から遺跡の評価、判断を全て行うが、行政からの監理、指導を受ける方式。
 - D. 発掘調査の全体計画から遺跡の評価、判断も全て行うが、行政からの監理、指導を受けない方式。

問10	C
-----	---

- 問11 発掘調査で理化学的分析を行う場合、どれが望ましいか。
- A. 理化学的分析は、本文とは別に「付編」として報告する。
 - B. 理化学的分析は、絶対必要なもので、とりあえず実施する。
 - C. 分析を行う場合、分析側に遺跡情報は知らせず、客観的な分析報告を求める。
 - D. 調査側と分析側で協議を行い、目的をもって分析し報告書に反映させる。

問11	D
-----	---

- 問12 文化財保護法第99条の調査の場合、調査状況から工程の遅れが予測されたとき、調査員としてどのような処置が必要か。
- A. 行政担当者の指示通り調査を行う。
 - B. 行政担当者に報告し、協議を行う。
 - C. 会社に報告し、指示を仰ぐ。
 - D. 事業者と協議する。

問12	B
-----	---

- 問13 埋蔵文化財行政における業務の4段階があるが、本発掘調査を行うのはどの段階になるか。
- A. 把握・周知
 - B. 調整
 - C. 保存
 - D. 活用

問13	C
-----	---

- 問14 国内最初に旧石器時代遺跡を予想して発掘を行った遺跡はどこか。
- A. 北白川遺跡
 - B. 丹生遺跡
 - C. 岩宿遺跡
 - D. 国府遺跡

問14	D
-----	---

- 問15 大正時代末、縄文土器を層位学的に分層発掘した遺跡はどこか。
- A. 加曾利貝塚
 - B. 堀之内貝塚
 - C. 万田貝殻坂貝塚
 - D. 諸磯貝塚

問15	C
-----	---

- 問16 細石刃文化の遺跡として最初に発掘された遺跡はどこか。

D. 電気探査は他の手法に比べて簡便だが浅い深度までしか調査できない。

問33	D
-----	---

問34 SFM/ MVS法による写真計測について、正しいものはどれか。

- A. 特殊な専用の撮影装置を必要とする。
- B. 撮影位置や角度は厳密に設定する必要はない。
- C. カメラと対象の距離を予め計測する必要がある。
- D. 撮影の方法は、通常の写真技術と大きく異なる

問34	B
-----	---

問35 発掘調査記録における写真撮影について、間違っているものはどれか。

- A. 記録保存のためのデジタルカメラはフルサイズ・センサー搭載機が望ましいとされる。
- B. 発掘調査に関するあらゆる写真記録は静止画像だけでなく動画なども用いるべきである。
- C. 銀塩フィルム・カメラの製造は急速に縮小しており、デジタルカメラへの置換が必須である。
- D. デジタルカメラでは一般的な J P E G 形式の保存のみで十分である。

問35	D
-----	---

問36 測量と計測について、正しいものはどれか。

- A. 測量とは、測量法の規定に則り行なわれる位置情報の計測・記録である。
- B. 測量は、任意の基準と座標で行なう。
- C. 発掘調査におけるすべての位置情報の計測・記録は測量でなければならない。
- D. 正確性を期するために、簡便な手法・機材は用いるべきではない

問36	A
-----	---

問37 考古学における遺物実測の方法について、間違っているものはどれか。

- A. 手測りによるほか、写真トレース、三次元計測などの方法がある。
- B. 手測りによる図化は、精確さ、再現性にもっともすぐれている。
- C. 三次元計測データを利用すると展開図や断面図の作成が容易である。
- D. 手測りによる遺物の図化は、最小限の道具があれば実施できることが利点である。

問37	B
-----	---

問38 奈良文化財研究所が運用・公開している報告書検索・閲覧システムとして、正しいものはどれか。

- A. 発掘調査資料総覧
- B. 発掘調査報告書検索システム
- C. 全国発掘調査報告書一覧
- D. 全国遺跡報告総覧

問38	D
-----	---

- 問39 下記の記述で、正しいものはどれか。
- A. 植物珪酸体では、タケ・ササ類が検出されにくい。
 - B. 種実・葉分析では、針葉樹の葉は検出されない。
 - C. 材同定では、クリの木材は検出されにくい。
 - D. 花粉分析では、クスノキ科は検出されない。

問39	D
-----	---

- 問40 花粉分析に不適な堆積物はどれか。
- A. 海成堆積物
 - B. クロボク土やローム層などの風成層
 - C. 泥炭層
 - D. 湿地に堆積した泥層

問40	B
-----	---

- 問41 樹種同定用試料採取において、正しいものはどれか。
- A. ブロック状に分析試料を切り取る際、必ずしも木口、柀目、板目の3断面がみえている必要はない。
 - B. 採取した木材は、カビが生えないよう95%エタノール中で保存する。
 - C. 炭化材は、水につけた状態で保存すると破損しにくい。
 - D. 生材は、自然乾燥した状態で保存した方が、カビが生えにくく分析に適する。

問41	A
-----	---

- 問42 花粉分析用試料の採取・保存方法で、間違っているものはどれか。
- A. 袋に入れて密閉し、冷暗所に保存する。
 - B. 試料を採取したら、手早く密封する。
 - C. 長期保管等で、試料が乾燥してしまった場合も、分析可能である。
 - D. 急激な乾燥に弱いので、屋外でゆっくり乾燥させる必要がある。

問42	D
-----	---

- 問43 人骨の年代測定で注意すべきことについて、間違っているものはどれか。
- A. 食性によっては海洋リザーバー効果の影響を受けるので、安定同位体比分析を行うと良い。
 - B. 焼骨もコラーゲンを抽出して分析する必要がある。
 - C. コラーゲンの品質について検討する必要がある。
 - D. 歯のエナメル質にはコラーゲンがほとんど含まれないので、歯髄や象牙質を使う必要がある。

問43	B
-----	---

- 問44 過去の年代値を暦年に直すときに、注意すべき事として、間違っているものはどれか。
- A. 同位体補正が行われていないことがあるため、暦年較正值に幅を持たせて考える必要がある。
 - B. 液体シンチレーション法のデータでも必要な結果が揃っていれば、暦年較正を行う事ができる。
 - C. 1年単位の年代値が記されていないため、暦年較正值に幅を持たせて考える必要がある。
 - D. AMS法で求めた値でなければ、暦年較正を行う事ができない。

問44	D
-----	---

問45 出土青銅・金銅製品の仮保管上の注意点として、間違っているものはどれか。

- A. 多数の小型遺物をポリ袋で仮保管する場合は乾燥剤を入れた密閉容器にそれらをまとめて保管するのが良い。
- B. 煙管の雁首や吸口に羅字（ラオ）が残存していることがあるので注意して仮保管する。
- C. 銅銭は真鍮製のワイヤーブラシで良く磨いて錆を落としてから乾燥剤とともにポリ袋に入れて仮保管する。
- D. 金銅製品は振動などで金が剥離することがあるのでポリ袋ではなく緩衝材を敷いた容器に入れて仮保管する。

問45	C
-----	---

問46 発掘現場での脆弱な小型遺物の固定から取り上げについての説明として、間違っているものはどれか。

- A. 固定して取り上げた遺物はなるべく速やかに屋内作業のできる環境に移して開梱し保存処理に着手すべきである。
- B. 石膏は使い慣れた材料であるが、硫酸イオンを含むので金属製遺物に直接接触するような使い方は避けるべきである。
- C. 石膏や合成樹脂ギプス（キャストイングテープ）で固定した遺物はX線を透過しないのでX線CTで内部が観察できなくなる。
- D. 合成樹脂ギプス（キャストイングテープ）は骨の取り上げ等の場合に使いやすい材料であるが、製品の有効期限を守って使う必要がある。

問46	C
-----	---

問47 考古学的調査に伴う出土遺物の分析手法の説明として、間違っているものはどれか。

- A. 水晶製遺物の赤外分光分析による原料産地推定が可能となりつつある。
- B. 黒曜石の原産地推定の手法としては波長分散型蛍光X線分析装置によるものが一般的で最も普及している。
- C. 鉛同位体比分析は古墳時代の鏡の原料産地推定研究が良く知られているが、戦国期の鉄砲玉などの原料産地の研究でも成果を上げている。
- D. 炭素同位体を用いた分析は年代測定のほかに古環境や食性の復元にも役立っている。

問47	B
-----	---

問48 発泡硬質ウレタン樹脂による遺物の固定から取り上げについての説明として、間違っているものはどれか。

- A. 硬化した発泡硬質ウレタン樹脂の切断にはナイフよりノコギリの方が有効である。
- B. 発泡硬質ウレタン樹脂は硬化すると空気中の水蒸気を大量に吸収して重量が数倍に増すので注意する。
- C. 発泡硬質ウレタン樹脂は硬化時に発熱するので火傷に注意する。
- D. 高温の時期には反応が急速に進むので薬剤を小分けにして調製する。

問48	B
-----	---

問49 出土鉄製品の保存処理法の説明として、間違っているものはどれか。

- A. 出土鉄製品の含浸に用いられる薬剤はアクリル樹脂とポリエチレン・グリコールの混合液である。
- B. 古墳出土の直刀には木質，鹿角，布の痕跡などが付着していることがあるのでクリーニング前にていねいに観察する必要がある。
- C. 出土鉄製品の中には金銀などによる象嵌が施されている可能性があるので小破片に至るまで全点をX線で透過検査することが望ましい。
- D. 出土鉄製品のサビに悪影響をもたらす塩化物イオンをなるべく減らすために脱塩処理をおこなうのが一般的である。

問49	A
-----	---

問50 保存処理完了後の出土鉄製品の保管上の注意点として、間違っているものはどれか。

- A. 脱塩処理が不完全な場合等に保存処理後の鉄製品に異状が発見されることがあるので、定期的に保管状況をチェックする必要がある。
- B. 保存処理後の鉄製品をシリカゲル入りのチャック付ポリエチレン袋に収めて保管する場合はこまめに点検してシリカゲルの交換をしなければならない。
- C. アクリル系樹脂で保存処理した鉄製品には恒久的な耐候性があるので保管場所に配慮する必要はないが、なるべく密閉ケースに納める方が良い。
- D. 脱酸素剤とガスバリア・フィルムで鉄製品を保管する場合には減圧による遺物の破損に注意・対策が必要である。

問50	C
-----	---